

中 学 校

平 成 11 年 度

教 育 研 究 員 研 究 報 告 書

社 会

東 京 都 教 育 委 員 会

平成11年度

教育研究員名簿（社会）

＜歴史的分野＞

区市町村名	学 校 名	氏 名
大 田	糥 谷 中 学 校	○ 三 浦 和 志
北	岩 淵 中 学 校	駒 崎 和 彦
練 馬	大 泉 第 二 中 学 校	高 沼 俊 秀
足 立	新 田 中 学 校	平 塚 益 孝
立 川	立 川 第 五 中 学 校	山 口 和 仁
府 中	府 中 第 六 中 学 校	大 石 雅 彦
町 田	金 井 中 学 校	肝 付 俊 朗
羽 村	羽 村 第 一 中 学 校	竹 口 君 夫

＜公民的分野＞

区市町村名	学 校 名	氏 名
江 東	南 砂 中 学 校	竹 原 眞
世 田 谷	駒 留 中 学 校	今 橋 英 次
荒 川	第 七 中 学 校	鈴 木 啓 之
葛 飾	青 戸 中 学 校	飯 塚 善 行
江 戸 川	小 松 川 第 三 中 学 校	梅 澤 宏 司
東 久 留 米	南 中 学 校	◎ 神 田 三 智 夫

◎ 世話人 ○ 副世話人

担当 指導部中学校教育指導課指導主事 中 元 順 一
都立教育研究所国語社会外国語研究室指導主事 赤 坂 寅 夫

目 次

目 次	1
I 全体の研究構想図	2
II 地理的分野の研究内容	3
1 地理的分野の研究構想図	3
2 検証授業 A・単元名「アメリカ合衆国」	4
(1) 生徒の実態	4
(2) 実践例	5
(3) 授業の概要と考察	6
3 検証授業 B・単元名「東京都」	8
(1) 指導計画	8
(2) 本時の展開例	9
(3) 単元の展開の概要	10
(4) 授業の考察	12
4 地理的分野の研究のまとめと今後の課題	13
III 公民的分野の研究内容	14
1 公民的分野の研究構想図	14
2 研究の内容	15
(1) 問題解決学習について	15
(2) 実践例「インターネットを用いた問題解決学習」	17
(3) 授業研究 1：3 年「国民生活と福祉～私たちの暮らしと税～」	18
① 単元の指導計画	18
② 学習指導案	18
③ 授業の考察	20
(4) 授業研究 2：2 年「公民的分野の導入学習－現代社会のとらえ方－」	22
3 公民的分野の研究のまとめと今後の課題	23
IV 全体の研究のまとめと今後の課題－これからの中学校社会科の授業改善の方向	24

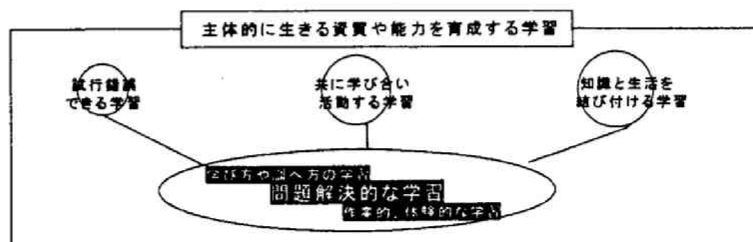
I 全体の研究構想図

研究構想図

I 今日の中学校社会科授業にかかわって、多くみることのできる問題状況—教師（教え）と生徒（学び）の実態

- 教師の「教え」にかかわって
 - ① 教科書一辺倒の授業からの脱却や多様な学習活動の工夫の必要性は感じているが、その方法が具体的に分かりにくい。それを研修する余裕もほとんどない。
 - ② 調査・発表学習への支持は高いが、時間がかかることを懸念して実践に踏み切りにくい。
 - ③ 教えることに自信がもてず、生徒の反応によって不安を感じることがある。
 - ④ 3分野の関連を図る総合学習への意識が不十分である。
- 生徒の「学び」にかかわって
 - ① 社会科の目標や3分野に分かれている理由を教えられていないため、学習の意義が分かりにくい。
 - ② 教えた内容のみ問うテストに疑問を持たず、点数を多くとることを重視しがちである。
 - ③ 広く社会的事象に関する学習を望んでおり、教科書だけの学習にならないことを願っている。
 - ④ 作業的、体験的な学習が単純に好きだとは限らない。
 - ⑤ 社会で起きるできごとを社会科で学習したことや自分に関係のあることと感じにくい。
 - ⑥ 授業の他に多くの気になることがあり、授業に集中しにくい。

II これからの中学校社会科授業への期待



- 教育課程審議会・答申（H10.7.29）～関係部分
 - 1 教育課程の基準の改善に当たっての基本的な考え方～学校とは
 - 子どもたちにとって伸び伸びと過ごせる楽しい場
 - 子どもたちが自分の興味・関心のあることにじっくり取り組めるゆとりのある場
 - 分からないことが自然に分からないと言え、学習につまずいたり、試行錯誤したりすることが当然のこととして受け入れられる場
 - 子どもたちが安心して、自分の力を発揮できるような場
 - 教科の授業だけでなく、学校でのすべての生活を通して、子どもたちが友達や教師と共に学び合い活動する場
 - 2 教育課程の基準の改善のねらい
 - ② 自ら学び、自ら考える力を育成すること
 - 「……知識と生活との結び付き、知の総合化の視点を重視し、各教科等で得た知識・技能等が生活において生かされ、総合的に働くようにすることに留意した指導も重要である……」
 - 3 社会科の改善の基本方針
 - ① 多面的に考察し、公正に判断する能力や態度、我が国の国土や歴史に対する理解と愛情、日本人としての自覚、国際社会の中で主体的に生きる資質や能力の育成
 - ② 基礎的・基本的な内容に厳選し、学び方や調べ方の学習、作業的、体験的な学習や問題解決的な学習など児童生徒の主体的な学習を一層重視

III 研究テーマ

自ら考え、互いに学び合って、主体的に学習する生徒を育てる社会科授業の工夫

IV 研究のねらい—共通のねらいと分科会のねらい

共通のねらい	
授業研究を中心とした実践的研究によって、これからの中学校社会科授業における教師（教え）と生徒（学び）の実態に正対した具体的な改善策について明らかにする。	
地理的分野・分科会テーマ	公民的分野・分科会テーマ
主体的な調べ学習・話し合い学習を通して、問題解決能力を育てる指導の工夫—地域の規模に応じた調査学習の試行—	現代社会の諸問題に対し、問題解決的な学習を通して、自ら課題を設定し追究できる力を育てる授業の工夫
分科会研究のねらい	分科会研究のねらい
○ 日本と結び付きの深いアメリカ合衆国と生徒にとって身近な地域である東京都を調査対象として、地域の規模に応じた調査学習を試行する。 ○ 「課題別班による調べ学習」と「話し合い学習」により、地域の規模に応じた調査・話し合い学習の指導法についての工夫を行う。	○ 現代社会の諸問題に対して、自ら課題を設定し追究できる力を育てる授業改善の方法を明らかにする。 ○ 自らの生活とのかかわりで調べる活動を重視した問題解決的な学習の実践の手だてを明らかにする。

Ⅱ 地理的分野の研究内容

1 地理的分野の研究構想図

○社会科研究主題

「自ら考え、互いに学び合って、主体的に学習する生徒を育てる社会科授業の工夫」

必要とされる能力・態度

- ① 身近な社会的事象に関心をもち、主体的に学習できる能力・態度。
- ② 他者の意見を取り入れ、多面的な見方や課題意識を深めていく力。
- ③ 自ら課題を見つけ、解決しようとする態度。

生徒の実態

- ① 社会のできごとを実感の伴わないものとしてとらえ、授業の中で自分の課題として追究していく機会が少ない。
- ② 生徒相互の意見を交換し、話し合い、考え合う機会が少ない。

地理的分野研究主題

主体的な調べ学習・話し合い学習を通して、問題解決能力を育てる指導の工夫
—— 地域の規模に応じた調査学習の試行 ——

研究のねらい

- ① 日本と結び付きの深いアメリカ合衆国と生徒にとって身近な地域である東京都を調査対象として地域の規模に応じた調査学習を試行する。
- ② 「課題別班による調べ学習」と「話し合い学習」により、地域の規模に応じた調査・話し合い学習の指導法についての工夫を行う。

主題設定の理由

- ① 生徒にとって身近な社会的事象を取り上げ、興味・関心に基づいた課題設定を行うことにより、主体的に学習しようとする意欲や態度を養う。
- ② 「話し合い学習」を通して、話し合い、考え合う中で、社会的事象を多角的にとらえていく力を養う。

研究の仮説

- ① 生徒の興味・関心に基づいた課題（仮のテーマ）設定を行うことにより、主体的に学習しようとする意欲を養うことができる。
- ② 生徒の「調べ学習」を通して、主体的に課題解決に向けての必要な統計・資料や情報を活用する力を身に付けることができる。
- ③ 生徒相互の「話し合い活動」を通して、自分とは違った新たな視点から課題（真のテーマ）を深めることができる。

研究の方法と内容

- ① 身近な社会的事象から課題を発見し、「調べ学習」を通して追究していく授業を行う。
- ② 「話し合い学習」を通して、生徒相互が課題意識を高めていく授業を行う。
- ③ 自己評価や相互評価を通して、生徒の変容を分析・考察し、検証授業の評価を行う。

2 検証授業 A

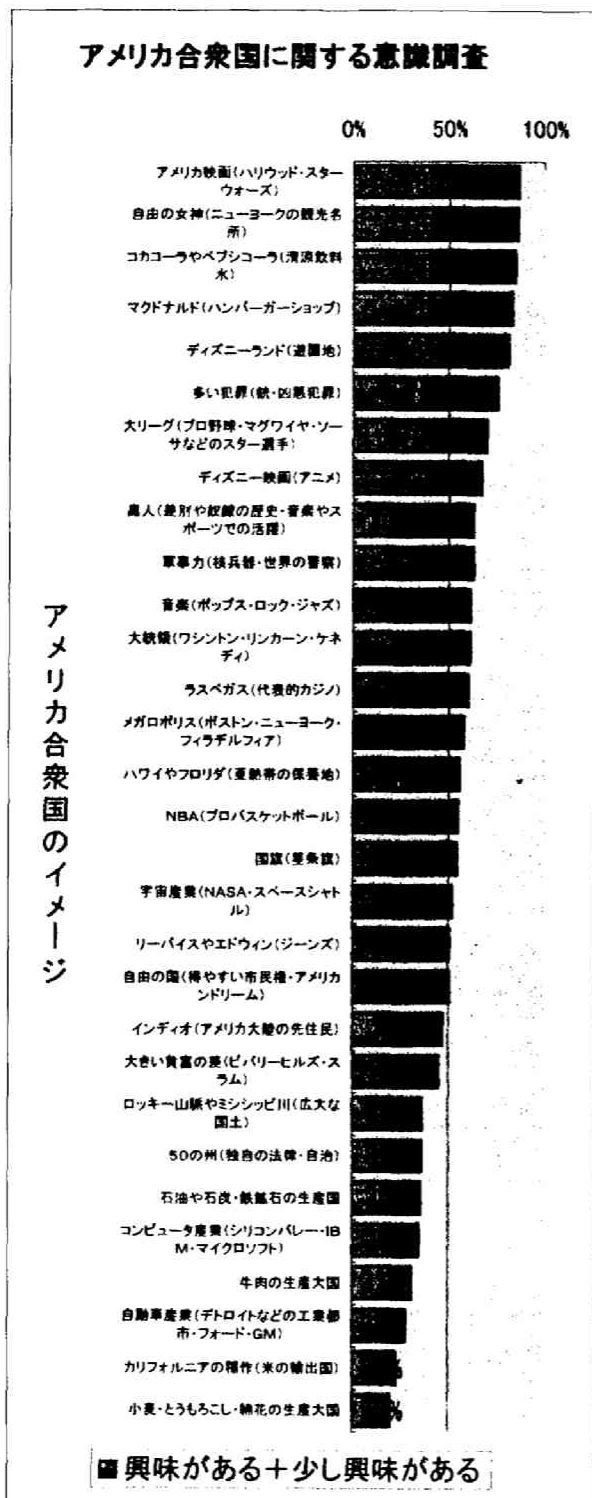
(1) 生徒の実態

研究を進めるに当たり、生徒の学習対象に対する意識調査を行った。結果は左下のようになった。

調査対象：中学1年生75名

方法：アンケート形式による。アメリカ合衆国に関連する30項目に対して関心の度合いを

4段階の中から選択させた（興味がある・少し興味がある・あまり興味がない・ほとんど興味がない）



〔調査結果の考察〕

- ① アメリカ合衆国は、他の国々との比較から、その情報量の豊富さなど、生徒にとって最も「近い」国の1つである。
- ② 多くの生徒には各々の「アメリカ像」があり、全く知らないという生徒は少なく（他の国では全くイメージできないこともある）、主体的な学習の対象として適している。
- ③ 生徒が興味・関心をもったり、イメージしている項目と教科書等で扱われている項目とは大きな開きが存在する。

● 興味・関心が高い項目

エンターテインメント

（映画、ディズニー、ラスベガスなど）
 飲食（コーラ、マクドナルドなど）
 スポーツ（大リーグ、NBAなど）
 若者文化（音楽、ジーンズなど）
 犯罪、軍事、ハイテク

（銃、NASA、核兵器など）

● 興味・関心が低い項目

小麦等の農作物、稲作、自動車産業、牛肉、鉱物資源など

- ④ 「調べ学習」を通して主体的な学習を進めていくためには、生徒の興味・関心を生かしながら、生徒各自がそれぞれの「アメリカ像」を追究していく学習過程が適しており、そのための学習環境をつくり、支援していく必要がある。

(2) 実践例

- ① 単元名 《アメリカ合衆国》
- | |
|---------------------------------------|
| 新学習指導要領
(2) 地域の規模に応じた調査
ウ 世界の国々 |
|---------------------------------------|
- ② 単元設定の理由 … アメリカ合衆国は広大な国土をもち、農業・鉱工業生産ともに世界最大の国であるという日本との相違点が際だつ国である。一方、日本とのつながりが強く、情報が豊かで生徒の関心も高い。したがって、新学習指導要領の「(2) 地域の規模に応じた調査」の「世界の国々」における調べ方・学び方を身に付ける事例として適切であると考えた。
- ③ 指導計画
- | | |
|-------|---------------------------|
| 第1時 | アメリカ合衆国に関するイメージづくり |
| 第2時 | 興味・関心に基づく調べ学習の課題づくり …… 本時 |
| 第3時 | 調べ方やまとめ方を考える |
| 第4～5時 | 調べ学習 |
| 第6～7時 | 発表・話し合い |
- ④ 本時の目標 … アメリカ合衆国の調べ学習を行うに当たり、生徒の興味・関心に基づく学習にするため、事前にアメリカ合衆国に関する生徒の意識調査を行い、生徒に資料の収集を指示してある。本時の目標は、持ち寄った資料を基に生徒が自由に調べたいテーマを挙げ、共通するテーマをグルーピングすることで、アメリカ合衆国を学ぶ上での教科の学習としての視点を整理すること、生徒を意欲的な学習になるように導くことの2点である。
- ⑤ 本時の学習展開
- [検証授業のポイント]
- ア 各自が、興味・関心に基づいて個人のテーマを考えられるか。
- イ 話し合いを通して、個人のテーマを教科の学習としての視点からとらえ直すことができるか。
- ウ 話し合いを通して、共通するテーマの生徒とグループをつくり、ともに学ぶ意欲と態度をもてるか。

	学 習 活 動	教 師 の 支 援
各自のテーマを出し合う	◆前時に行ったアメリカ合衆国のイメージの言葉を思い出しながら、生徒が持ち寄った資料をもとに、各自が自由に調べたいテーマを考え、発表する。 [発表は、各自がカードを黒板に貼る。大リーグ、映画、銃、マクドナルド、ディズニーランドなどのテーマが予想される]	◇持ち寄った資料を活用するため、班で情報の交換が行えるように座席を移動させる。 今回は調べたいテーマ毎に学習班を構成させる。

話し合い活動をする	◆黒板に貼られたカードを眺め、共通性がある類似したテーマを同一グループにまとめる。 ◆いくつかにまとめられたグループを基に、学級全体でグループ分け（グループテーマ）を決定する。 〔映画、スポーツ、人種、企業、犯罪などのグループが予想される〕	◇班で話し合わせる。また、グループ化する理由（テーマの共通性）が言えるように支援する。 ◇自由に意見が言えるよう配慮する。 
構成する学習班を	◆生徒は自分が調べたいと思うグループテーマ毎に分かれ、調べる内容や方法を話し合い、学習班を決定する。	◇各自が納得いくテーマになるように、話し合いの途中でも調べたい学習班に移動してもよいと助言する。

- ⑥ 本時の評価
- ア 各自が自分の調べたいテーマを考えられたか。
 - イ 各自が自分の調べたいテーマを教科の学習としての視点からとらえ直すことができたか。
 - ウ 各自の興味・関心を生かし、これからの調べ学習に意欲的に取り組もうとする態度がみられたか。

(3) 授業の概要と考察

① 授業の概要

ア 「個人のテーマ決め」では、持ち寄った資料や前時に出し合ったアメリカ合衆国について知っている事柄の一覧を参考にしながら、生活班を単位とした話し合い（情報交換）を通して自分のテーマを考えた。アメリカ合衆国を学ぶに当たり、一人一人が自分の「こだわり」をもつことができたようである。

イ 「グループテーマの検討」は、個人のテーマを共通性があるものごとにまとめていく作業である。個人テーマが教師側が予想したほど個別のものにならず、「バスケットボール」「映画」「NASA」などを複数の生徒が同じ言葉で提示したため、共通性を考えるという話し合いが十分深まらなかったように感じた。しかし、生徒の活動は活発で、18種類の個人テーマを8つのグループテーマにまとめあげた。

ウ 「新しいグループでの話し合い」は、まず自分のテーマに対する思いや希望を仲間を紹介するという表現活動から行わせた。進行上の指示が生徒に十分伝わらなかったためうまくいかなかったが、それを差し引いても、生徒の表現能力は育っていないことを感じた。この点は今後の課題である。この後、グループのリーダーを決め、学習カードに従って今後の調べ学習の計画などを考えさせた。

② 授業の考察

ア 「各自が自分の調べたいテーマを考えられたか」

アメリカ合衆国は情報の多い国であり、スポーツや芸能、観光地など生徒の既有知識が多い。前時の授業では54の言葉が生徒から集まった。また、観光パンフやガイドブック、新聞記事を集めることにより、多くの情報の中から個人テーマを考えることができた。その一方で、提示された個人テーマの種類が36人で18とやや少なかった。生徒が、調べやすさを考えてある程度大きなくりの言葉で個人テーマを考えたと考えられる。

イ 「各自が自分の調べたいテーマを教科の学習としての視点からとらえ直すことができたか」

教師側は、例えば、マクドナルド、コカコーラ、ケンタッキーフライドチキンといった言葉を「企業」とか「農業」といったグルーピングができるとよいのではないかと考えていたが、そのような教科の学習としての視点を高めるグルーピングは多くなかった。本時では、ハワイ、ラスベガス、カジノが「観光地」、ロッキー山脈、国土と自然、観光地、農業が「アメリカの自然」という学習班になった（観光地の生徒が「アメリカの自然」に入ったのは本人の希望）。一方、「ディズニーワールド」、「NBA」といった同一語でグルーピングされたグループがその言葉を切り口にどこまでアメリカ合衆国の特色に迫っていけるかは、この後の調べ学習の中で教師側から支援していきたい。少数派では、人種差別を個人テーマに出した生徒は「映画」の中に入り、映画を通して人種差別を調べることになった。また、「英語」を個人テーマに出した生徒は自分の希望を生かせるグループがなく、仕方なく「スターウォーズ」に入ったが、一人だけの「グループ」を認めてもよかったのではないかと指摘が研究協議であった。

ウ 各自の興味・関心を生かし、これからの調べ学習に意欲的に取り組もうとする態度がみられたか。

授業後に行ったアンケートで、「個人テーマがグループテーマにまとめられて、『アメリカ合衆国を調べよう』という気持ちは・・・」との問いに、

強くなった	17	どちらかというが強くなった	17
どちらかというが弱くなった	2	弱くなった	0

という結果が出た。個人テーマを話し合い活動を通してグループテーマにまとめ、学習班を構成することは、意欲的な学習を成立させるうえで有効であると考えられる。しかし、生活班を解体した学習班の編成は、テーマ性や学習意欲より学級内の人間関係に影響される側面があり、安易なグループ編成にならないように、教師側が生徒の学習に対するモチベーションを高くする工夫を幾重にも用意する必要がある。

エ 評価について（学習カードの活用）

単元学習の最後に行う評価については、「教師による評価」、「生徒の自己評価」、「生徒の相互評価」を組み合わせる。「教師による評価」は活動場面の全般を通して適宜行うが、自己評価と相互評価は、学習カード（資料参照）を活用し生徒の話し合いの場を設定する。生徒は自分の活動を一人で、または仲間と検討することで反省し、学習の方法に工夫を加え、「次はこうしよう」という気持ちになると考える。

3 検証授業B

(1) 指導計画

- ① 単元名 《東京都》 { 新学習指導要領 (2) 地域の規模に応じた調査 }
イ 都道府県

② 単元の指導目標

- ア 東京都にかかわる調査学習を通して、地図・統計その他の資料を活用し、都道府県規模の地域的特色を追究する方法を身に付けさせる。
- イ 自ら考えた学習課題を設定し追究することにより主体的に学習する態度を育てる。
- ウ 話し合い活動を通して、友人の調べた情報や異なる見方・考え方を知ることにより広い視野から自分の考えや意見を深めさせる。

③ 指導計画（8時間扱い）

	学 習 内 容	学 習 活 動	教 師 の 支 援	資 料
第 1 時	学習課題意識 (興味・関心)	- 身近な地域（立川市）について各班で調べたことを簡潔に発表する。 - 東京都の白地図と写真から、示された地点がどんな地域かを予想する。(10地域) - 班ごとにどの地域を調べたいかを話し合う。(2地域)	- 調べた内容と印象に残ったことを挙げさせる。 - 立川市の特色と比較・関連させながら、考えさせる。 - 調べたい地域が集中しないよう調整する。	地図帳 東京都白地図 各地域の写真 ワークシート1
第 2 時	仮テーマ の設定	- 調査地域を決定する。 - 図書やインターネット等、調査方法と内容を検討する。 11月に行われる現地調査で方法や視点を立案検討する。	選択した2地域の関連・比較の視点を与えるとともに、身近な地域とのつながりも考慮する。	図書室 インターネット ワークシート1
第 3 ／ 4 時	調査活動	2地域について、図書室やインターネット、その他の方法で調べる。	調べる方法や情報源が分からない班にはアドバイスをを行う。	ワークシート1 図書室 インターネット
第 5 時	現地調査	それぞれの地域について、調査・観察の視点に基づいて班ごとに調べる。	メモを取ったり、写真等記録を残すように指示する。	写真
第 6 時	発表準備 とまとめ	事前に調べたこと、現地調査から分かったことなどを、発表に向けてまとめる。	模造紙やプリントに要点を分かりやすくまとめるよう指示する。	ワークシート1

第7/8時 (本時)	発表会 と班討議 (真のテーマ の発見)	・班ごとにまとめたことを発表する。 ・疑問や不明な点を質問する。 ・班ごとのそれぞれの地域の地方的特殊性や共通性から、東京都の多様性と特色を、学級全体の話し合いにより明らかにする。	・発表を聞きながら、2地域の地方的特殊性や共通性から東京都の多様性と特色を見出すようにさせる。 ・東京都の人口分布図等を活用して考えるようヒントを与える。	ワークシート2 ワークシート3

(2) 本時の展開例

① 検証授業のポイント

ア 生徒自ら調べたいテーマ（仮のテーマ）を設定することによって、主体的な調べ学習が展開できるか。

イ 生徒相互の話し合い活動から、互いに学び合う態度が身に付くか。

ウ 生徒相互の話し合い活動から、さらに調べてみようとするテーマ（真のテーマ）を発見できるか。

② 本時の展開

学 習 活 動		教 師 の 支 援	資 料
班による発表	◆各班で調べ、まとめたことを発表する。 (前時の発表に続き、2班) ◆発表を聞きながら、各自でワークシートに内容を記録する。	・模造紙にまとめたことをもとに、2地域の共通性と地方的特殊性を強調して発表させる。 ・2地域の共通性と地方的特殊性を簡潔にまとめるようアドバイスする。	・東京都全図 ・東京都白地図 ・ワークシート2
全体での質問・ 討議	◆発表を聞いて不明な点やもっと知りたい点を質問する。 〈予想される質問〉 ・特徴をもっと分かりやすく説明してください。 ・この地域の問題点は何ですか。	・質問事項から地域の特色が明確になるよう、質問や回答を補足し考えるヒントを与える。	・ワークシート3
話し合い活動	◆これまでの発表とワークシートの内容を踏まえ、都内の10の地域の共通性と地方的特殊性及び立川市との比較から、「住みたい町はどこか?」→「なぜ住みたいか?」を考え、班で話し合う。	・これまでの学習を生かして、班員一人一人が意見を出せるよう、住みたい町とその理由に焦点を絞って話し合い、班としてまとめさせる。	・ワークシート3

	◆それぞれの班の考えを発表し合い、東京都の地域的特色と課題を見出す。	・住みたい町をその理由から東京都の多様性に気付かせるとともに、共通性から特色を浮き彫りにさせる。	
--	------------------------------------	--	--

③ 評価の観点

ア 発表形式を工夫し、問題提示をすることができたか。

イ 話し合い活動の中で仲間の意見を聞くことを通して、自分の意見を述べる姿勢がみられたか

(3) 単元の展開の概要

① 第1時では、東京都の区市の境界線が入った大きい白地図とそれぞれの地域の特徴を示した10枚の写真から、それぞれ地図上のどこの地域を示したものであるかを予想した。

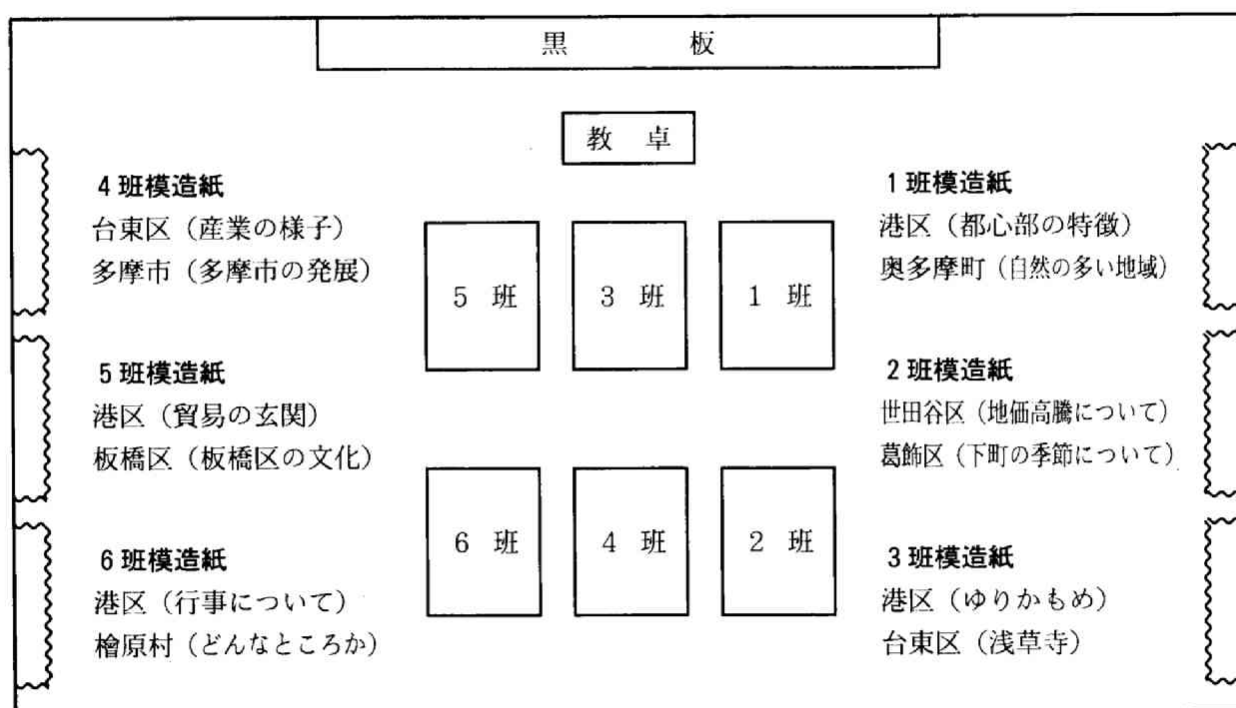
10枚の写真は、東京都の多様性や比較・関連付けをしやすいよう、また対称的な地域が選べるよう配慮した。この10地域の中から、班の話し合いを行い、調査で調べたい地域を2地域選ばせ、それぞれ調べる地域の調べる視点（テーマ）を考えた。

② 第2・3・4時では調査地域の調査の方法、現地調査の立案・検討を行い、図書室を起点として、コンピューター室や相談室のインターネットや文献による調べ学習を行った。

③ 第5時は、学校行事の都内めぐりを活用し、班に分かれてそれぞれ選んだ地域の現地調査を行った。

④ 第6時は、これまでの調べ学習や現地調査で調べたことをまとめた。全員が見られるように各班が調べた内容を模造紙にまとめ教室内に掲示した。（下図）

[各班の模造紙の配置とテーマ]



⑤ 第7・8時は、各班で調べた内容を発表した。模造紙にまとめた内容をもとにして、班で選んだ2地域の共通性とそれぞれの地域の地方的特殊性、立川市と比較してみて分かったことを発表した。各自は、班の発表を聴きながらワークシートに2地域の共通性、地方的特殊性など分かったことを記入した。また発表ごとに質問タイムを設け、不明な点やもっと知りたいことを質問した。「再開発とは具体的には何か。」「祭りが9月に集中しているのはなぜか」などの質問が出された。

全班の発表が終了後、発表された地域に立川市も加え、「住みたい地域はどこか?」「なぜ、住みたいと考えるのか?」と投げかけ、個人の意見を基に班討議を行って班としての意見をワークシートに記入させ、全体での話し合いを行わせた。

班や学級の話し合いの中で、「都心は栄えていて交通が便利だ」「交通渋滞で空気が汚れているから自然が多い地域がいい」「立川は両面があり、その上、住みなれているから」など、いろいろ意見から東京都の多様性が出されるとともに、東京都としての特色や課題が浮き彫りにされた。この話し合いから、各自がもっと掘り下げたいテーマ（真のテーマ）に迫っていった。

〔 模 造 紙 の 内 容 〕

東京都の調査 ○班	
A地域のテーマ	B地域のテーマ
調べた内容	調べた内容
2 地 域 の 共 通 性	
2 ○地域の地方的特殊性	
立 川 市 と 比 較 し て 分 か っ た 事 柄	



▲
◀ 発表し話し合う生徒

(4) 授業の考察

- ① 興味・関心に基づいて生徒自らが初発の調べたいテーマ（仮のテーマ）を設定することによって主体的な調べ学習が展開できたか。

身近な地域（立川市）の調査を経て、自分たちが住んでいる東京都の調査に入ったため、第1時から興味・関心をもって授業に臨んだ。ただ、今回は学年行事としての「都内めぐり」があった関係で、調べ学習や現地調査を生活班形態で行った。生徒個人の興味・関心をより一層引き出すためには、テーマ別の班編成の方がより効果的であったと思われる。調べ学習では、図書室を起点としてコンピューター室と相談室のインターネットを開放し自由に調べることができた。しかし、「資料が少なく調べられなかった」「他の人にやってもらった」という意見も出され、自主的な学習の方法の習得や図書室の本・資料ソフト（データ・ベース）の整備等が必要であると考えた。

- ② 生徒相互の話し合い活動から、互いに学び合う態度が身に付いたか。

今回の検証授業の重点の一つとして、話し合い活動を活発に行わせることがあった。班の発表を基に最初は各自の意見を考え、その意見を基に班討議に臨ませる場面を設定したが、生徒の感想として「みんなそれぞれに意見を主張して、みんながみんな後に引かなかった」「自分の意見が出すぎた。でも一応班長としてまとめた。」「班の話し合いで結構意見がバラバラだったけど、なんとかまとめることができた。」「他の人の意見を聞くことはできたが、まとめることができなかった。」等が出され、意見をもって発表しようとする姿勢はあったものの、協力してまとめようとするところは難しかったことが窺える。授業では、班の中での話し合いから学級全体での班と班とのやりとりによる話し合いの深まり・発展をめざしたが、さらに生徒の思考を深める話し合い活動の工夫が必要である。

- ③ 生徒相互の話し合い活動から、さらに調べてみようとするテーマ（真のテーマ）を発見できたか。

今回の授業では、興味・関心に基づいたテーマを主体的に調べ追究し、調べたことを発表し合い、話し合い活動をする中で、自分が調べたこととは異なる友人の情報や異なる見方・考え方に接することにより視野が広がり、思考が深まり、さらに調べてみようとするテーマ（真のテーマ）を発見できるのではないかと考えた。そこで、発表を踏まえて「さらにどのようなことに興味・関心をもったか」をワークシートの最後に記入させたところ、「祭りについてもっと詳しく調べたい」「いろいろな工場を見たい」「東京の歴史（江戸時代）を勉強したい」「各地の土地の値段からつながっていくものを調べたい」などが出された。学級全体としての話し合いの深まりはいま少しであったが、追究活動や発表を通してさらに調べてみたいという意欲を喚起することが可能であることが分かった。

- ④ その他

今回の授業では、生徒の主体的な学習を重視したため、調べた内容には社会科から離れたものもあったが、意欲の継続の観点から軌道修正せず、生徒の自主性に任せた。しかし、全体として、調べ学習に重点が偏り、地図の活用や統計資料の読み取りや考察のいわゆる社会科本来の追究活動が少なかった。今後の支援の在り方に工夫が必要である。

4 地理的分野の研究のまとめと今後の課題

(1) 研究のまとめ

① これからの「調べ学習」と「話し合い学習」

これまでの教師主導で知識教授中心の授業形態を転換し、生徒自身の既存の知識・経験から生じる素朴な疑問及び興味・関心に基づいた学習テーマを、主体的に調べ学習を行うことにより、生徒の積極的及び前向きな学習意欲を喚起することができた。さらに、自分あるいはグループで調べたことを発表し合い、情報交換や意見交換をする話し合い学習により、学級全体として新たな疑問や課題を発見する活動へと発展させることができた。

教師から与えられた学習テーマではなく、生徒自身が設定した学習テーマであること、また、生徒個々のもつ興味・関心の共通性を生かした学習テーマごとのグループ編成により、調べ及び発表を行ったことで学習の掘り下げや意見交換が活発に行われた。

② 「地域の規模に応じた調査」の取り扱いの工夫

この度、新学習指導要領の「(2) 地域の規模に応じた調査」の試行を実施するに当たり、「イ 都道府県」においては、既習の「ア 身近な地域」(立川市)の学習結果を生かし、グループで調べた他の地域と身近な地域と比較・関連し、話し合い学習により共通点と相違点を明らかにし、東京都としての地域的特色を見出す活動を行った。また、「ウ 世界の国々」においては、生徒にとって興味・関心が強く、情報量が多い国であることを生かして、生徒の興味・関心に基づく学習テーマを設定し調べ学習をすることにより、生徒自らが調べ方・学び方の基礎を身に付けることができた。

③ 教師の支援

研究授業においては、教師は生徒の自主性と興味・関心を最大限に尊重し、学習活動が有意義に進展するよう、また意見交換が活発に行われるよう適切な助言と支援を心掛けた。特に、ワークシートを活用することにより、学習活動のプロセスやそれぞれの過程での生徒の思いや意見が学習の成果として残り、自己評価や相互評価に生かすことができた。

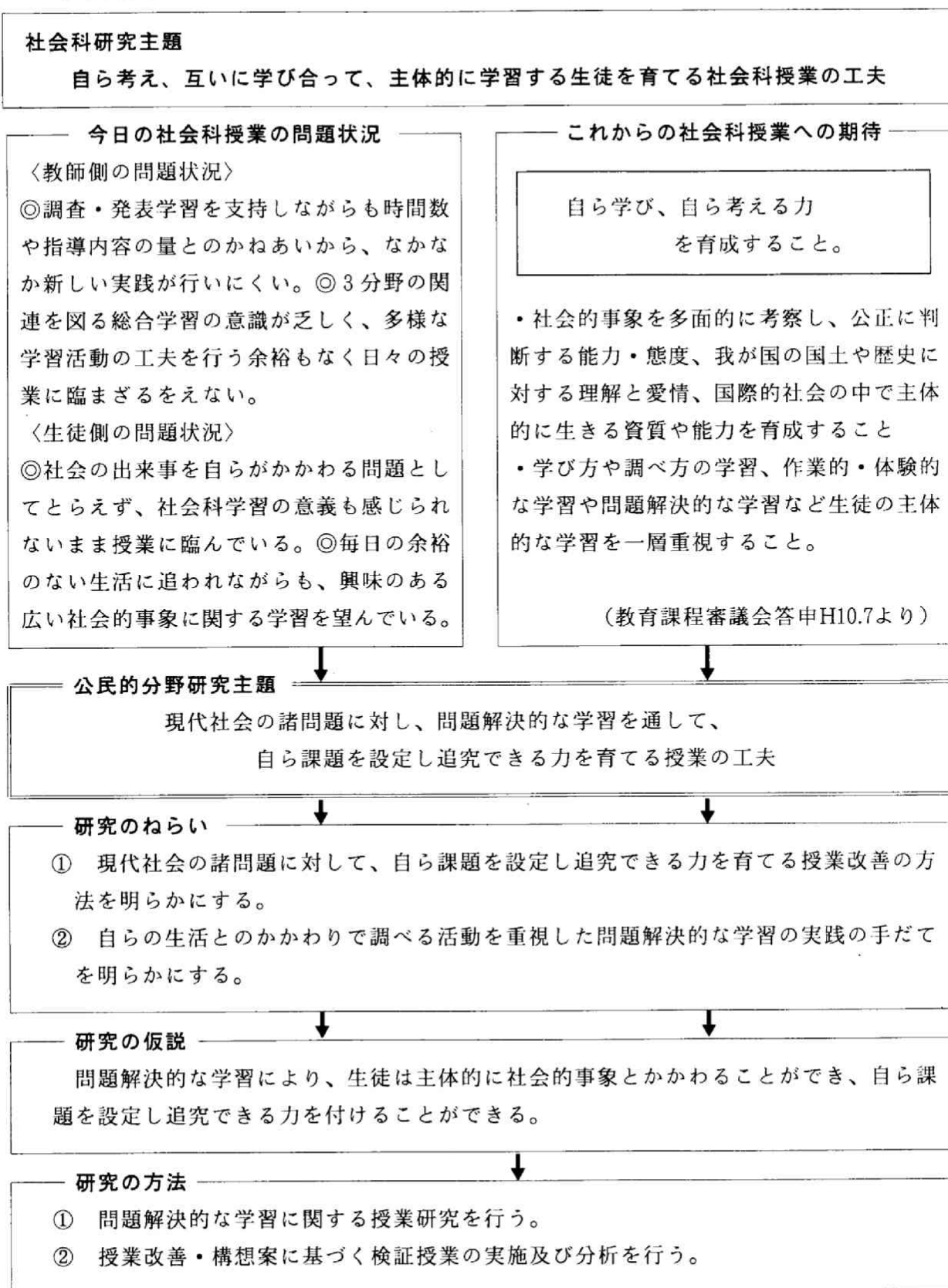
(2) 今後の課題

本研究における調べ学習においては、生徒の興味・関心を生かした学習テーマを設定したが、生徒の興味・関心は多岐にわたり、関心・意欲を維持しながら、学習テーマ及び学習活動を社会科の学習としていかに整理していくかが今後の課題の一つである。また、学習テーマを追究し整理した上で抱く課題はさらに高度で複雑な内容のものとなる。このような生徒の学習意欲を満たすためには、情報源として、学習情報センターとしてのコンピュータ(インターネット)の活用及び図書室等、学習環境の整備が必要である。生徒の興味・関心に基づいた意欲が満たされてこそ、次への学習意欲が生じるといえる。この度の研究授業においても、「図書室での書籍だけでは自分の学習テーマを追究できない」として、学習テーマを修正せざるを得ないを生徒もいた。

今後の社会科の学習においては、現地調査をはじめ学校外へ出かけて学習活動を進めることが多くなる。生徒への安全対策を配慮することはもちろん、活動の内容や方法に応じて、授業の1単位時間や時間割を柔軟に変更できるシステムも考慮する必要がある。

Ⅲ 公民的分野の研究内容

1 公民的分野の研究構想図



2 研究の内容

(1) 問題解決学習について

① 新学習指導要領における社会科の目標の改善点

ア 社会に対する関心を高め、諸資料を活用して思考・判断できるようにし、学習の過程を重視する。

イ 知識・理解の学習に偏りすぎないようにするとともに、学び方を学ぶ学習を一層充実し、社会科における問題解決的な能力の育成を重視する。

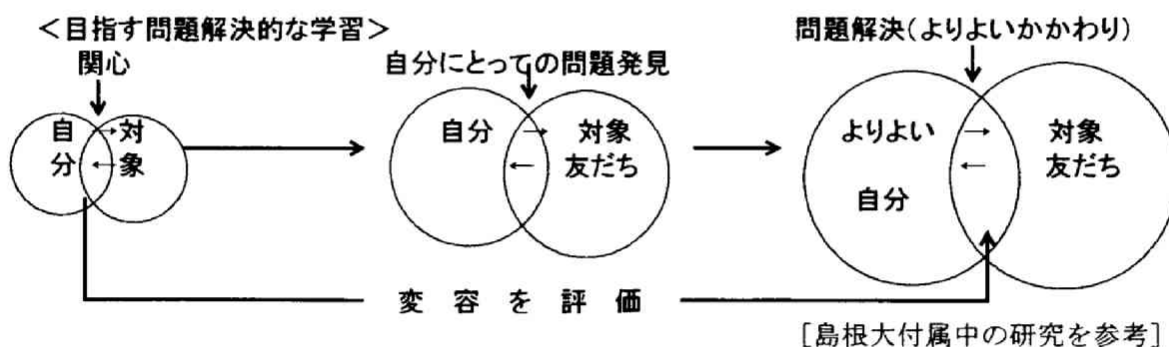
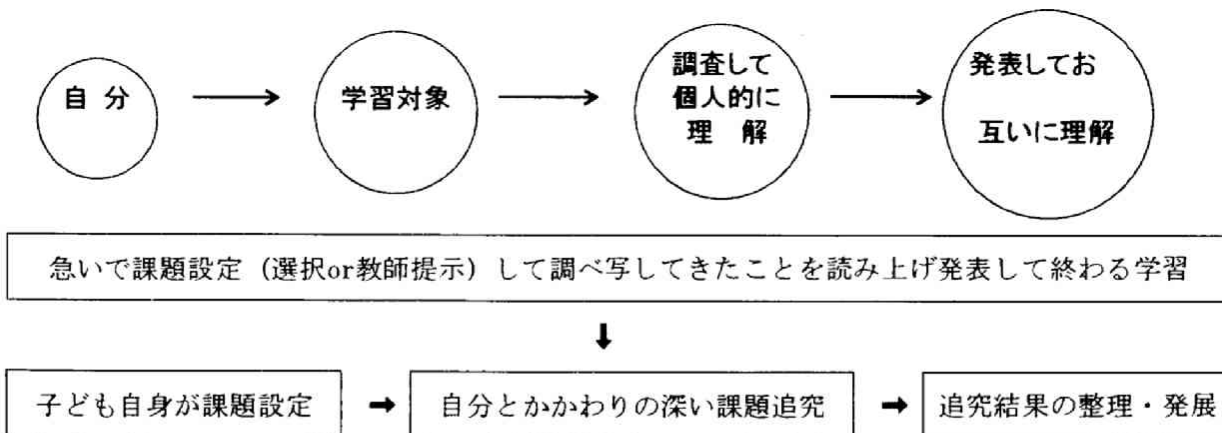
この2点が新学習指導要領での社会科の目標の改善点である。「諸資料の活用」「学習の過程の重視」「学び方を学ぶ」といった点は、問題解決学習の中に含まれるところであり、この問題解決学習は今日的意義のある方法であるといえる。

② 問題解決学習とは

ある学習課題に対して、自ら追究し、発表し、話し合う学習である。この過程で新たに問題を発見し、今度はそれを追究していく。このように、単に調査・発表するだけでなく、生徒の学習における自立的な展開を目標におくものである。そのため、単なる調べ学習や主体的な学習を探究活動型の問題解決（課題追究）的な学習に変えていくことが大切である。

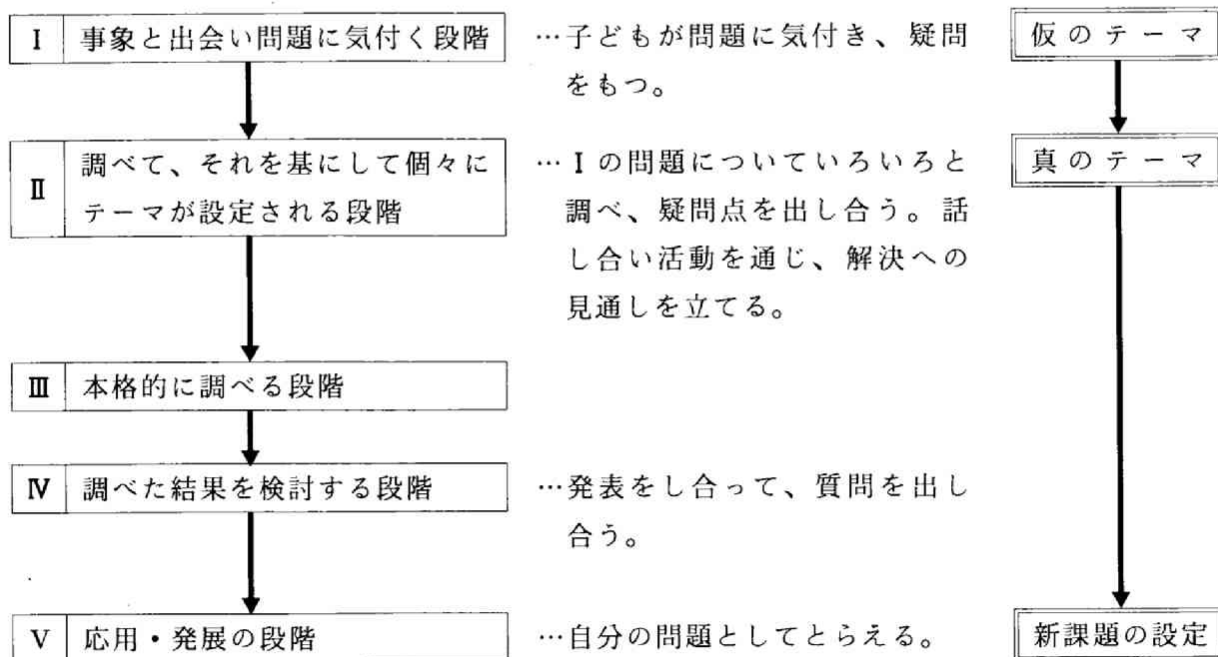
なお、「問題解決的な学習」は、手法としてより柔軟な考え方に立つものである。

<これまでの調査・発表学習>

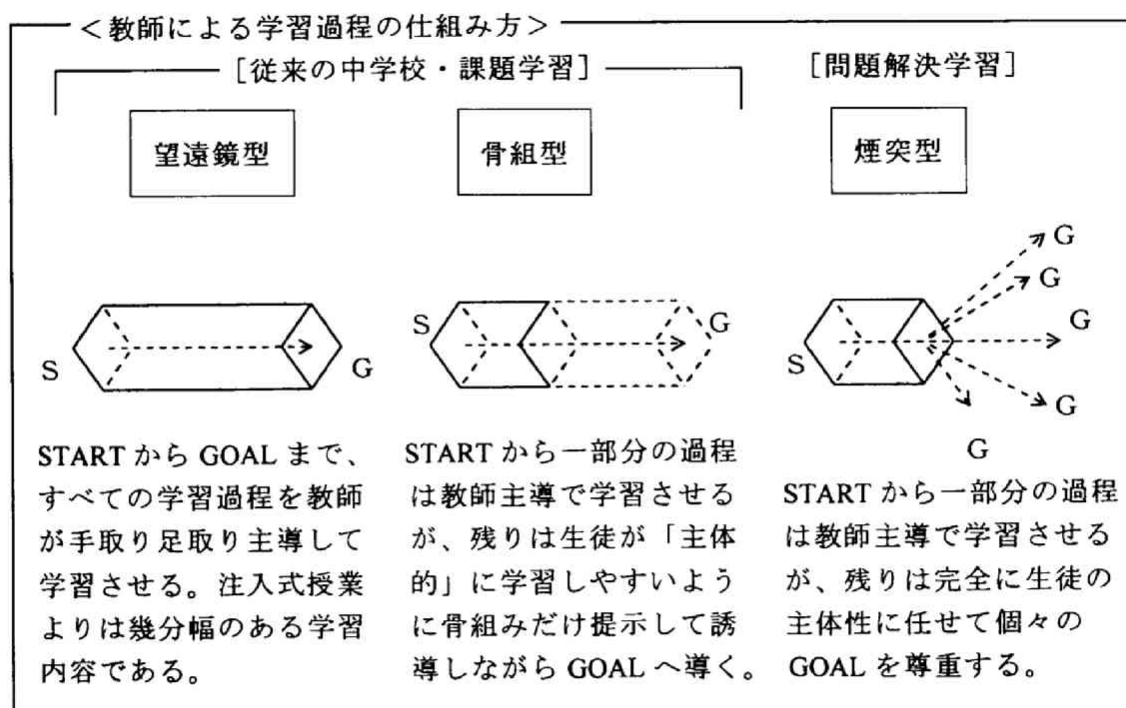


③ 問題解決の過程（プロセス）

この過程には、次のような段階がある。



すなわち、事象と出会い、好奇心を動かされ、仮の問題となるようなテーマを立ててみる。それについて、まずいろいろと調べていくうちに問題の解決への糸口が見つかる。このことを調査・話し合い活動を通して一応の結論に導く。そして、そのことを質疑応答の中で新たな課題（真のテーマ）を見出す。問題解決の過程とは、このように新たな問題を次々と発見する過程である。



(2) 実践例「インターネットを用いた問題解決学習」

ここでは、インターネットと問題解決学習をつなげた実践例を示す。

◎単元名：人権思想の新しい展開 「世界の人権問題」

人権がおかされているさまざまな例を基に、人権を守る意味を考えてみよう。

(1) 生徒の学習活動

- ① 今日、世界の国々で人権がおかされている例はないだろうか。
……（問題の発見、生徒による課題の設定、課題にかかわる調べ活動）
- ② なぜ、人権がおかされるようになったのだろうか。
……（課題にかかわる調べ学習、問題点や疑問点の追究）
- ③ 人権を守るためには、私たちは何を考え、どう行動していったらよいだろうか。
……（これまでの学習の発表、質問）→【本時】
- ④ 私たちが人権を守ることは、どのような意味があるだろうか。…（応用・問題の一般化）

(2) 本時の展開

◎ 前時までのまとめ

人権がおかされている例	問題の発生している国々	問題の背景
世界に広がる難民	ソマリアなど	政治・宗教・人種の違い
ストリートチルドレン	フィリピンなど	貧困
外国人の排斥	ドイツなど	失業者の増加

◎ 本時の展開 学習テーマ「他国の人々の不幸に、私たちは無関心でよいのだろうか」

◎ 生徒の反応

- ・日本は、今のところは平和でよいと思った。
- ・宗教や人種の違いだけで、国を追いやられたりするなんて初めて知った。
- ・今の日本は豊かだから、貧困から生まれる不幸を忘れがちになっていると思う。
- ・今の日本は景気が悪いから、ドイツのような問題は人ごとではないかもしれない。

(3) 単元の指導に当たって

◎ 社会の諸問題に対する、問題解決的な学習の取り組みの手法

調べ学習については、インターネットを活用した。これからの調べ学習においては、インターネットは欠かせない。問題解決的な学習は、方法面でのコンピュータ活用が普通のことになるに違いない。パソコンルームには、ネットに接続されたコンピューターが40台設置されている。平成11年10月から、光ケーブルに代わり、40台のパソコンに直接アクセスが可能になり、ファイルのダウンロードが大幅に高速化された。

◎ 指導上の留意点及び指導のその後

基礎的・基本的な語句については、予め予習プリントを配り、家庭学習の課題とした。授業では確認までとする。また、調べ学習の発表は、パソコンルームでは、本校の場合、その広さや座席配置などから不向きであるので、発表は教室で行うようにした。

本時以降、人権とは何か、南北問題、雇用問題、経済のしくみなどに問題が発展した。



▲パソコンルームでの調べ学習

(3) 授業研究 1 : 3 年「国民生活と福祉 ～ 私たちの暮らしと税 ～」

〈課題設定の過程の検証〉

(1) 単元の指導計画 (6 時間扱い)

- 第 1 次 税制度に関する基礎的な事項について学ぶ。 (2 時間)
 第 2 次 税について、調べてたことをもとに作文を書く。 (2 時間)
 第 3 次 作文を互いに読み合い、新たな課題を設定する。 (1 時間) ……本時
 第 4 次 日本の社会制度について調べ、考える。 (1 時間)

(2) 本 時

① 主 題 「税を通してみた日本」

税金と自らの生活とのかかわりについて調べたことや話し合ったことから、日本の社会制度に関する新たな課題を設定する。

② 主題設定の理由

生徒自らが課題を追究していく学習を進めていくために、まず、どのようにすれば生徒自身が課題を設定できるのか考えた。具体的には、①「調べ学習」の結果をどのように授業で生かしていくのか、② 自らと社会的事象とのかかわりの中で新たな課題が生まれてくる授業にするには、どのようにしたらよいのか、という二点で授業を行うこととした。

国会、内閣、裁判所や社会保障、教育制度、国際関係など日本の社会制度を学習していくに当たり、まず体験的な活動をきっかけに身近な税金という題材についての調べ学習を考えた。次に、調べたことをもとに意見を発表し合い、多面的な見方を身に付けさせようとした。今までの調査・発表学習は、この段階で終了してしまっていた。今回はさらに、それぞれが、税金の学習をもとに日本の社会制度に関する全く新たな課題を設定できるように試みた。このことによって、それ以降の学習に対して、自らの生活にかかわる学習という意識をもたせることができ、主体的な取り組みができるようになると思った。

③ 本時の指導の流れ

学 習 内 容	学 習 活 動	教 師 の 支 援	予想される生徒の反応
I 他の意見 や考えを聞 く	① 教師側が選んだ 作文を読む。 ② 宿題の「税金の 使われ方」につい ての一覧を見る。 ③ 感想を話し合い、 発表する。 →疑問 (もっと	・記名のあるプリン トを配布し、読む。 ・一作品ずつ、簡単 な質疑を行う。 ・生活班の形態にす る。 ・話し合いカードに 沿って進めさせる。	・他の意見について 関心をもつ。 ・他の作文に対して、 共感、疑問を抱く。 ・感想を述べ合う。 ・話し合いカードの 内容の補足説明を 求める。

	知りたいこと) はな いか、考えさせる。	・話し合いが活発に なるように補足を 加える。 ・グループごとにど んな意見が出たか 発表させる。	・新たな視点に気付 き、関心が深まる。
Ⅱ 自らの疑問 の整理と課 題の設定を 個人で行う。	① ワークシートに 自分の意見をまと める。	・机をもとにもどす。	・新たな関心をもつ。 ・同じ事柄でも、別 の視点から追究し たいと思う。
Ⅲ発表を行う。	① 自分が設定した 課題を発表する。	・作文を読んだ生徒 から指名する。	・意見の変容に関心 をもつ。

④ 評 価

- ・税の使われ方が、自分たちの生活とつながりがあることを理解できる。
- ・自ら課題を設定し、追究する意欲をもつことができる。

⑤ 資 料

〈話し合いカード〉

- 1 出された意見で感心したことは、どんなことですか。
- 2 自分の意見と違うところは、どんなところですか。
- 3 税金が使われている社会の仕組みの中で、興味をもったことは何ですか。

授業で読んだ生徒作文（抜粋）

・私は今まで小学校から中学校へと当たり前のように勉強をしてきましたが、学年ごとに変わる教科書などの代金はすべて税金で賄われていることを知りました。他にも図書室などの施設・体育用具などにも税金が使われていました。今までは税金は父が国に納めていて、私には全く関係がないものと思っていましたが、このようなことを知り税と私たちは深くかかわっているのだと実感しました。

もっといろんなことを知りたくなり、税金に関する資料を見ってみました。そうしたら、社会保障関係費というものがありました。これはお年寄りや障害者の人たちなどの生活面を助けるためのものでした。私は今、健康で何不自由なく生活していますがこういった方々はとても大変だと思います。そのために安心して生活ができるようにと集められていきました。国民みんなで支え合っているような気がして、とても嬉しくなりました。ひとりが納めるのなら小さいけれど、みんなで納めるのならとても大きなものになります。私たちの社会は国民一人一人によって成り立っているのだなと感じました。

・税金といった形で国民は助け合い、支え合っているのでしょうか。それはこれから先も変わらぬことだと思います。よりよい社会となるためには一人一人にかかっているのです。だからこそ私たちはもっと広い視野で身の回りを見て、どんなところに税金が使われているのかを知るべきです。そうすれば税金に対する思いも変わっていき、明るい未来が見えてくると思います。(H)

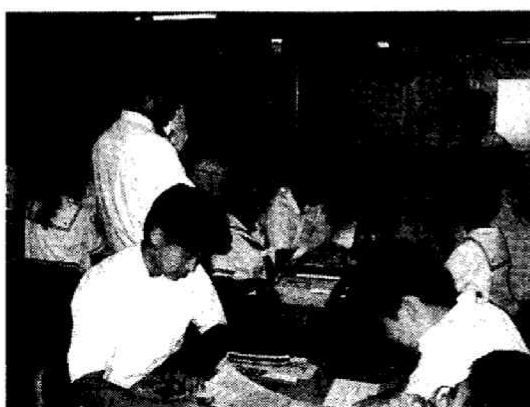
(3) 考 察

この単元の学習は、調べ学習によって税制度を学び、その後、税制度から離れ、学んだことをもとに日本の社会制度について自ら課題を設定し、追究していくという構成をなしている。そして、この授業では、日本の社会制度に対して新たな課題を設定させることを主眼としている。以下、「授業者の立場から」と「生徒の立場から」について考察を加えたい。

① 授業者の立場から

学習内容Ⅰ「他の意見や考えを聞く」

- ・多様な意見を聞かせるため、5点の作文を読んだ。
- ・効率的に作文を読みこなすために、話し合いカードを予め配布する必要がある。
- ・話し合いをより活発にするために、課題一覧表をはじめから掲示したほうがよい。



▲グループでの話し合い

学習内容Ⅱ「課題の設定」

- ・個人の意見を考えさせる時間を十分に確保することが重要である。

学習内容Ⅲ「発表」

- ・生徒の変容について、教師側からは十分に把握できた。
- ・生徒相互では、板書をするなどの支援が必要である。

② 生徒の立場から

注目された生徒の活動として以下のことが挙げられる。

- ・自らの生活とのかかわりを意識できていたので、活発な意見交換ができた。
- ・地域振興券のように、教師が意図した課題設定の方向とは別の課題に興味をもつものもいた。
- ・ほとんどが、理由や根拠を自覚して新たな課題を設定していた。
- ・課題設定に関しては、授業前と授業後では課題設定に対する意識がかなり変わった。生徒の発言からは、以下のことが特筆される。

「自分は税制度や社会制度の悪い面ばかり指摘していたが、他の人がよい面や改善方法まで述べていて感心した。」というものもあり、事実調べを発表して終わりという段階から、一面では、自分と他との違いから多面的なとらえ方を学び、新たな課題に向けての意識が高まった様子がみられる段階に達したように思われる。

学習シートからは、次のようなことが考えられる。

「もっと知りたくなった」、「友達の意見から」、「あらたな疑問をもった」という理由から課題を設定した生徒が多く、課題意識の発展がみられた。

さらに、34名中28名は、税金という学習範囲を越えての課題設定を行った。そのことから、現代社会の諸問題に対する視野が広がったといえる。

▼学習シート

学習シート

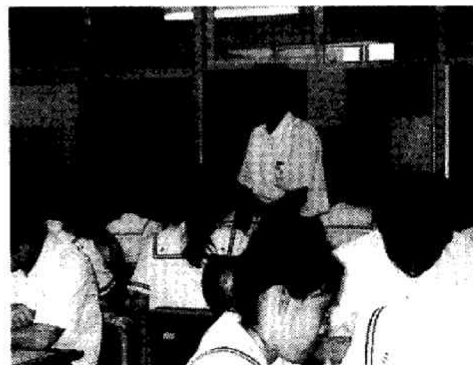
3年 B組 番

- 1 あなたが新たに興味をもった税金の使われ方をあげて下さい。
社会保障
- 2 1であげた理由を述べて下さい。
社会保障をうけられずに、とくになくもいると聞いている、どのような状態にうけられ
- 3 1であげたことについて、もっと具体的に調べるにはどうしたらよいですか。
病気の祖母がいろいろで、世話をしているおじいさんに聞く。

学習シート

3年 B組 番

- 1 あなたが新たに興味をもった税金の使われ方をあげて下さい。
地域振興券
- 2 1であげた理由を述べて下さい。
今日の授業でみんなの意見を聞いて、知らないことが
- 3 1であげたことについて、もっと具体的に調べるにはどうしたらよいですか。
明かすことが
インターネットで調べられ
さらに詳しく調べられるから。



▲話し合いの内容の発表

学習シート

3年 B組 番

- 1 あなたが新たに興味をもった税金の使われ方をあげて下さい。
国さい費
- 2 1であげた理由を述べて下さい。
どのようなものに借金もしているのかも知りたい。
- 3 1であげたことについて、もっと具体的に調べるにはどうしたらよいですか。
資料をさがす

③ 課題設定の一覧から

授業前の課題をみると、公務員の給料が4名、学校が6名、社会保障が6名、そのほかに都庁の庁舎や国会の運営費など、税金が使われている場面が見やすかったり、普段の生活でよく耳にするような事柄が多かった。授業後は、景気対策としての地域振興券

氏名	授業前	授業後
K	地域振興券	地域振興券
H	社会保障	国債
T	社会保障	国債
M	学校	学校
M k	銀行の救済	地方自治

だったり、高齢化社会とリンクさせた社会保障といった課題の設定になっている。この点においても課題意識の深化がみられる。また、授業前にはなかった国債が4名、1名だった地域振興券が6名になっている。これは、意見の相互交換から生まれた結果であり、授業の成果であるといえる。今後はさらに、生徒が自発的に話

し合い活動を望んだり、意見を発表するような授業展開を考えていきたい。

(4) 授業研究 2：2 年「公民的分野の導入学習」〈2 月 7 日 説明会当日、授業実践の予定〉

〈課題設定過程の実践〉

(1) 単元名：「現代社会のとらえ方」

地理的分野における公民の導入学習として

(2) 単元の指導計画（8 時間）

課題 「20世紀新聞」（冬休み中の課題として）

第 1 次 プリテスト （1 時間）

第 2 次 課題設定と調べ学習 （4 時間）・・・本時はこの中の 1 時間

第 3 次 発表と今後の課題設定（2 時間）

(3) 本単元の指導の流れ

「20世紀新聞」の作成

↓ … 興味・関心の喚起

発表・掲示

↓ … 「仮のテーマ」の設定

その中から、課題設定

※公民のプロローグとして、現代史に
影響を及ぼした事件や現代社会に
つながる問題点などに着目
するよう教師の側から支援する。

↓ テーマの発表

※各自カードを作成し、黑板掲示

例 四日市ぜんそく…公害
航空機墜落…ハイジャック
プロ野球…「J」リーグ
などというように、カテゴリーに
分けていく

↓ 課題別班の編成

… 「真のテーマ」の設定

↓ 調べ学習

※図書室において行い、各自の資料集めを支援する。

↓ 各グループの発表

※各班の発表の後に、公民への期待を語
らせる。

(4) 予想されるテーマ

1968 年の場合

小笠原諸島返還 → 領土・国際社会

イタイイタイ病 → 公害・環境問題

3 億円強奪 → 警察・刑法

プラハの春 → 社会主義 など



▲「新聞」の例



▲校外の調べ学習（製粉所）

3 公民的分野の研究のまとめと今後の課題

(1) 研究のまとめ

① 仮説の検証

「問題解決的な学習により、生徒は主体的に社会的事象とかがかわることができ、自ら課題を設定し追究できる力を身に付けることができる。」という仮説を設定した。本研究は、それが昨今求められている「生きる力」に結び付くことを再確認しながら、実践を続けた。「子どもがたちが、今知りたいことは何なのか」「この単元で知りたいことは何なのか」「ここで調べたことの未来には何があるのか」等、結論を急がずに、できる限りの支援を行った結果、何人かの生徒に変容が見られた。調べることに積極的になっていった生徒、単元終了後も新聞の切り抜きを集めたりする生徒、新聞を読み始めたことを自慢そうに報告する生徒などである。本研究は、このようなことから問題解決的な学習が、有効な方法であることを再認識できた。

② 「新たな課題」の設定について

本文ではふれられなかったが、選択社会でも同じ方法論のもとで授業研究を進めた。「伝統的食文化研究班」の生徒たちが、そば作りをしようと石臼を探し出し、実際に作ったり、「高齢化社会班」が地域の特別養護老人ホームを訪問し、そのときの見学に感動し、ボランティアを行うようになったりした例もあった。選択社会という、社会科に興味・関心のある生徒だけが集まったからできたということもあるが、生徒たちはその方法・手順さえ分かれば様々な課題を見つけることができるということが確認できた。

(2) 今後の課題

本研究は、「① 現代社会の諸問題に対して、自ら課題を設定し追究できる力を育てる授業改善の工夫を明らかにする。」「② 自らの生活とのかかわりで調べる活動を重視した問題解決的な学習の実践の手だてを明らかにする。」というねらいを設定した。私たちは、教えることはできる限り基礎・基本だけにし、捻出した時間で生徒の主体的な活動の時間を確保した。そして、「問題解決のプロセス」にもあるような段階を追うことを単元の中に組み込んだ。「新たな課題」の獲得ができるように、すべてがその授業・単元の中で完結するという発想をもつことは止めた。生徒自身にとっての「新たな課題」が今日、放課後に生かされることもあるだろうし、将来実を結ぶこともあるだろうというように考えること、そのための方法・手段・基礎的な知識を教えていくことに重点を置き、授業改善を図ることが重要であると考えた。

また、公民的分野では、ややもすると制度・組織の理解にだけ焦点が当てられ、そこで活動している人間自体が見えにくくなることもある。本研究は、できるだけ身近な問題を提起しながら、それが「今の自分の生活とどんなにかかわりがあるか」という「ゆさぶり」を生徒たちに与えながら授業を進めることを心掛けた。すべての事象にこの方法があてはまるとは限らないが、そうすることによって初めて「自ら学び、自ら考える力を育成すること」が可能である。社会科は、単なる「暗記教科」ではなく、科学的で、また一方、人間形成に資する学問だということを問題解決的な学習は示している。

Ⅳ 全体の研究のまとめと今後の課題

—— これからの中学校社会科の授業改善の方向について

1 新しい地理学習の方向の検討の必要性に関して

平成10年12月改訂の中学校学習指導要領「第2節 社会」において、最も大きく改訂された内容は地理的分野の内容である。地理的分野は、方法面で大きく改善し、教える教師は大きな戸惑いを覚えていると思われる。本研究が、地理的分野の新学習指導要領(2)「地域の規模に応じた調査＝地域の規模に応じて地域的特色をとらえる視点や方法が異なってくる」を研究対象とした理由は、いち早くその先行研究例(実践例)を提供したいがためである。まだまだ不十分ではあるが、本研究は、この新学習指導要領の地理学習の方向を望ましいものと推奨するものである。

2 新しい中学校社会科の授業改善に関して

両分野の研究を総括して、これからの社会科の授業改善に対して、次の視点を提言したい。

これからの中学校社会科は

- (1) 「知識を生きてはたらかせる方法」を学ばせる授業を目指すこと。
- (2) 「社会的な見方・考え方」の基礎の育成をねらいとする授業を目指すこと。
- (3) 学習者の人間性や生活のあり様などの実態を考慮した授業を目指すこと。

(1) に関しては、これまでの単に暗記量で勝負する知識(内容)偏重の社会科から、これからは「自分の知っていることを使ってみる」学習を進める学習形態や学習方法などの工夫が必要である。そのため、基礎的・基本的な知識をダイナミックに駆使させる授業を行い、知識が成長するように、内容と方法の一体化を進めることが大切である。

(2) に関しては、『解説』の中に、地理的分野の「地理的な見方・考え方」や公民的分野の「個人と社会とのかかわりについての見方・考え方」「政治や経済に対する見方・考え方」などの基礎を養うことに関連した記述がみられる。

例えば、本研究で地理的分野の研究が重視した「地域的特色」のとらえ方や考え方に関連する地理的な見方・考え方の項目の中には、「一般的共通性と地方的特殊性の視点からの追究」と「大小様々な地域が部分と全体とを構成する関係で重層的になっていることを踏まえること」が挙げられている。(参照：『解説』pp.22-23)

また、公民的分野における「政治や経済についての見方・考え方」にかかわっては、「……基本的な考え方や事項を今までもっていた政治や経済についての見方や考え方の中に新たに組み入れることによって、それまでにあった自らの見方や考え方を成長させることが大切である。」という考え方が示されている。(参照：同 pp.155-156)

見方や考え方の基礎の育成に関しては、その文言の意味と実際の授業実践との間の開きが大きいのと感じる状況がある。それは、社会科教員が「見方・考え方の基礎の育成」を意識しながらも、実際の授業に反映しにくいという状況である。本研究は、この繋ぎのところに焦点を当てることになると思う。

(3) に関しては、これからの中学校社会科の授業改善の最大の眼目と言ってよい。一般に社会科授業の問題点の第一に(1)で指摘したように、従来どおりの「知識偏重」が挙げられることが多いが、「生徒の意識や生活との開き」の方がより大きい問題点であると思う。人間味の感じられない授業、生徒の生活に全く関連が感じられない授業を打破していきたい。